



岳下っ子だより

雪の季節

今朝は冷え込みが厳しく、雪がちらついていました。いよいよ雪の季節の到来です。

寒さに負けず登校してくる子どもたちの明るい表情に、学校生活が子どもたちにとって充実したものでなければならぬと、改めて感じます。

圧雪や凍結で道路状況が厳しくなる季節です。送迎等で来校する際には、スリップ事故等が起こらないよう、十分に減速するなどのご配慮をお願いします。また、お子さんには、滑りにくい靴を履き、手袋を着用することのお声掛けをお願いします。



個別懇談へのご協力、 ありがとうございました

11月28日(月)～12月6日(火)は、個別懇談のためご来校いただき、ありがとうございました。お子さんのこれまでの頑張りや成長、これからの課題や目標などを具体的に話すことは、お子さんのよさを多面的に捉え、学校と家庭が同じ方向を向いてお子さんを支えていく上で必要不可欠なことです。短時間ではありましたが、大変充実した懇談となりました。ご協力に心より感謝いたします。



* * * * *

早いもので、まもなく2学期が終わります。授業日数を数えましたら、2学期はあと13日、3学期は51日です。新鮮な気持ちと期待感をもって新年を迎え、夢や希望を膨らませて進級・進学を迎えられるよう、子どもたちの内面理解に努め支えるとともに、「やりたいことやなりたい自分」を具体的にイメージして「自ら動き出す」ことを促してまいります。これからも保護者の皆様との連携を大切にしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

お子さんの言動には、必ず意味があります。「いつもと違う」「何だか気になる」「考えていることが分からない」「もう少し〇〇だったらいいのに」など、心配なことや気になることがありましたらご連絡ください。一緒に話し合しましょう。

第1回二本松市小・中学校ビブリオバトル大会

11月29日(火)、安達公民館・安達文化ホールにて、第1回二本松市小・中学校ビブリオバトル大会が開催されました。

ビブリオバトルとは、2007年に、京都大学情報学研究科共生システム論研究室の谷口忠大研究員(現命館大学情報理工学部教授)によって考案された知的書評合戦のことで、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに、全国各地で行われています。今回の大会は、以下のように進めました。

- ① 発表者は、面白いと思った本を持って集まる。
- ② スライドやレジュメ等は一切使わず、自分の言葉で本の魅力を伝える。(一人3分)
- ③ それぞれの発表後に、参加者全員で質疑応答し、本の内容や発表者の思いについて理解を深める。(一人1～2分)
- ④ 全ての発表終了後、「どの本が読みたくなったか」を基準に投票し、最多数集めたものを「チャンプ本」とする。



本校からは、6年生の渡部心葉さんが発表者として参加し、「りんごの木を植えて」(大谷美和子著・ポプラ社)を紹介しました。その本の主人公は、小学5年生のみずほ。おじいちゃんに重病が見つかったものの、おじいちゃんは病院の治療は受けない方法を選びます。みずほがおじいちゃんといっしょに生活していく中で、「生と死」を見つめ直すという話です。

心葉さんは、この本を読み、自分の中で「生と死」の認識が大きく変わり、今を力強く生きる決意をしたことを、自分の言葉でしっかりと伝えました。

目指していた決勝進出にはなりませんでしたが、心葉さんが素晴らしい本と出あい、その素晴らしさを伝えようと、先生や家族、級友たちの支えとともに真剣に取り組んできたことの尊さがひしひしと伝わってきて、心を強く揺り動かされました。第1回大会に全力で取り組んだ心葉さんの前向きさに、心からの拍手を送りたいと思います。



第1回二本松市小・中学生ビブリオバトル大会
奨励賞 6年 渡部 心葉

授業に取り組む真剣なまなざしに 成長を感じました

～ 4年道徳科・5年1組学級活動 校内授業研究会 ～

11月30日(水)、今年度最後の校内授業研究会を行いました。4年の道徳科と5年1組の学級活動の授業です。どちらの学級も、落ち着いて真剣に授業に取り組む子どもたちのまなざしが印象的で、一人一人の成長を実感することができました。

【4年 道徳科】

教材文は、「クラスたいこう全員リレー」です。

〈内容〉たけしは足が遅いので、たけしがいるチームは勝利が望めない。風邪で学校を休んだことを理由に、たけしに「無理しない方がいい」とリレー大会に出ないことをすすめる級友たち。その様子を見たそうたは、「たけしは一生懸命に練習していたから、きっと出たんだろうな」と思いながらも、それを言えなかった。

授業では、正しいと判断したことをなかなか行動に移せない心の葛藤について話し合い、正しいことをするために大切なことについて考えました。

自分がそうたの立場だったらどうするだろう。子どもたちは、「心の円グラフ」を使って、「正しいと思えることが言えない自分がある」「仲間はずれ



にされるかもしれない」など、正直な気持ちを伝えながらも、正しいと思ったことを行動に移すことの大切さについて真剣に考え、正しいことを

するために大切なことについて自分の考えをまとめることができました。

【5年1組 学級活動】

議題は「5の1をみんなで盛り上げよう！ カウントダウンフェスタ2022」です。そして、「1・2学期、みんなで力を合わせて様々な行事等に取り組んできたことを振り返り、このつながりを大切にしながら3学期への意欲を高めていきたい」というのが、提案理由です。



子どもたちは、
① 何をするか。
② 盛大に行うためにどんな工夫をするか。
について、理由を明確にしながらかえを出し合いました。

た。また、異なる意見について、どう折り合いを付けていくかについても話し合いました。

計画委員会が事前に活動の計画表を作って学



級全体で行う活動を明確にするとともに、一人一人が「話し合い計画カード」に記入して臨んだだけ合って、一人一人の発言に自信が感じられました。

岳下オリエンテーリングを振り返って

11月18日(金)に実施した岳下オリエンテーリングの振り返りを紹介します。今回は4年生です。

- 6年生たちと相談して、楽しいオリエンテーリングにできたと思う。城報館に行くとき、下級生たちが「つかれたあ」と言っていたけど、6年生たちが「がんばって」と言っていて、「上級生だなあ」と思いました。



- 私は、霞ヶ城に行ったことはあったけど、上の方の公園には行ったことがなかったので、新しい発見をしました。計画を立てるのにまざって一生けんめい考えたので、やっと上級生がやること的なことができてうれしかったです。二本松のことも知れたので、一石二鳥でした。

- たてわり班のみんなと相談したりして、分からないところは「ここから行くと近いよ」みたいに教え合ったりした。行ったとことがないところや地いきのよさを知った。

- 新しくできた城報館には、二本松少年隊の刀や信長にももらったかぶとがありました。レプリカや本物がありました。実際に刀などが見られて、えいぞうも見られて、高学年の勉強に役立ちそうです。

コンクール入賞者のお知らせ

令和4年度

安達地方火災予防・ポスターコンクール
優秀賞 5年 本田 心愛

※ 紹介が遅れて申し訳ありませんでした。